

JM-4 人工呼吸器装着患者の在宅療養支援

横浜市立市民病院 赤松直子

【はじめに】

人工呼吸器を装着し在宅療養を行う場合、日常的に家族や介護者が人工呼吸器を取り扱わなければならず、取り扱いを誤れば生命の危機的状況を招く結果となる。人工呼吸器を管理していく上で必要な知識の他、気管内吸引、アンビューバックマスクの取り扱いなど習得しなければならない介護技術も多い。

当病院では、平成15年より在宅呼吸療養支援チームを結成し、人工呼吸器装着中の在宅療養支援に取り組んでいる。人工呼吸器装着中であっても安心して自宅での療養生活が営めるよう、専門分野のスタッフがチームを組み、入院中の退院指導の充実や、地域との調整・連携を円滑に図ることを目的としている。在宅療養支援チームは、主治医、リハビリテーション医師、病棟看護師、在宅ケア推進室担当看護師、医療ソーシャルワーカー、重症集中ケア認定看護師、外来看護師、臨床工学技士で結成れている。

【在宅呼吸器療法に向けた準備】

1. 人工呼吸器の取り扱いと日常点検
2. 日常生活上の介護技術指導
3. 在宅療養環境の評価と改善
4. 地域の支援体制（連携）
5. 緊急時の対応

【介護技術指導】

人工呼吸器に関連した主な介護技術は以下のとおりである。重症集中ケア認定看護師、病棟看護師と連携を図り行っている。

1. 気管内吸引
2. アンビューバックマスクの使用法
3. 排痰ケア（体位排痰法やスクリービングなど）

4. オーラルケア

【気管内吸引指導】

気管内吸引は、24時間を通して多く行われる介護技術である。しかし気管内吸引は、①気管支壁への刺激による迷走神経反射：徐脈、血圧低下、心停止、②気管収縮による低酸素血症、③気道粘膜の損傷、④感染、など合併症についてのリスクも踏まえる必要がある。効果的な排痰ケアと気管内吸引が行われなければ、安全が保障されないばかりか、患者や家族の負担も増す結果となる。

気管内吸引指導は病棟看護師と連携を図りながら行っている。入院生活の様子から、状況により問題点を抽出し、効果的な排痰ケアの検討を行い実施する。実際の効果を患者に確認しながら、技術指導を行う。患者も家族も効果を実感することで納得し前向きに取り組めるようになる。手技は家族のペースに合わせて無理なく繰り返し行う事が重要である。入院中のケア、指導した内容は、地域医療担当スタッフに対し情報提供を行い、必要時にはケアプランの再検討なども行っている。

【終わりに】

在宅支援チームの一員として各専門分野で連携を図り、知識や技術提供を行う事は患者・家族に対し、責任を持って安全を保障するために有効である。在宅療養に向け、患者・家族が必要な知識の習得、安全で効果的な介護技術の習得、緊急時に適切に対処できる支援体制、地域医療担当スタッフとの連携が重要である。